

令和元年度（2019年度）産山学園便り

# 夢創造

『夢の給食』にたくさんの方々が関わっていただけたことにも感謝しています。



令和2年1月30日（木）no.32 文責：上田

## 夢の給食 「ごちそうさまでした」

先週から今週にかけて、テレビ・新聞で何度となく『夢の給食』が報道されました。学校からメールで、24日（金）・28日（火）のテレビ放送をご覧になられた方、29日（水）の熊日新聞を読まれた方も多かったのではないかと思います。子どもたちが赤牛ステーキをおいしそうにはおぼる姿は見ていてうれしくなりました。

『夢の給食』は、「食の生産にかかわる人々の思いを知るとともに、自らの食や健康について考える力」「郷土への関心を高めるとともに、郷土への誇りや郷土愛」を育む機会として、長年続いてきた取組です。今年は、田尻の井俊介さんを講師に招き、乳牛と肉用牛、赤牛・黒牛・国産牛・外国牛の違いや特質、さらには阿蘇の草原での放牧などについて、写真やスライドでわかりやすく話をしていただきました。井俊介さんが「臭いや音、そして舌で味わってほしい。そして、おいしい肉を生産する人の思いを心で感じてほしい」と話されたことは、子どもたちにも感謝の心として伝わったと思います。ありがとうございました。



学校では、1月を食育月間として食への感謝を学ぶ様々な機会を設けています。栄養教諭が発行している『給食だより』の記事も、家族の食卓での話題にしていたければ幸いです。

## 新型コロナウイルスの感染拡大

中国・武漢で発生が確認された新型コロナウイルスの流行に関心が向けられています。私の知り合いも武漢で勤務したことがあって、HONDAなどの自動車産業が盛んな大都市だと聞いています。感染の拡大が日本でも心配されます。

17年ほど前、コロナウイルス「サーズ」が流行した折、タイへのヒゴタイ交流（派遣）が中止されたことがありました。人の往来がさらに盛んなグローバル化した現代では、海外と強くつながっていることをあらためて感じます。